

# 子ども食堂 輪広がる

## 県社協協など 青森で説明会 新たに開設の動き

地域の子どもたちに食事も居場所を提供する「子ども食堂」の開設や運営を支援しようと、県社会福祉協議会と県共同募金会は13日、青森市の県民福祉プラザで説明会を開いた。県内の社会福祉法人の関係者を中心に約100人が出席。開設準備中の団体も複数あ

り、子ども食堂の輪は、さらに広がりを見せそうだ。県内の子ども食堂は青森、弘前、八戸の3市に計8カ所ある。説明会では、県母子寡婦福祉連合会の三浦伸子事務局長が、昨年度から一人親家庭を対象に月1回開き、これまで延べ273人が利用した」と報



子ども食堂の運営説明会で、立ち上げ方法などをメモする出席者

大鰐町内では商店街の活性化を目指す開設準備が進んでいる。準備に携わる兼業農家の正田宜宏さん(50)は「『子ども食堂』とは、たわす、受け皿を広くして食事を提供し、子どもからお年寄りまでの憩いの場になれば」と話した。資金確保に

告。「子どもの偏食が改善され、手伝いの習慣も付いた。多世代間の交流にもなっている」と効果を語った。7月下旬のオープンを目

指す青森市の社会福祉法人の管理者の女性は、取材に対し「知的障害者の作業所内に開き、交流の場にした」と期待を込めた。

苦心する運営者も多かった。説明会では、赤い羽根共同募金による助成事業の紹介もあった。

講演した八戸学院大学の佐藤千恵子准教授は、八戸市で子ども食堂開設に携わり、調査・研究も進めてい

る。取材に対し、全国的に継続難に陥っている食堂が多いことを挙げ、「それぞれのペースやスタイルで続けていくことが大事。運営に困ったら、すぐに相談してほしい」と話した。

(古川路子)